



吉原



舞鶴市立吉原小学校
学校だより
11月号
令和5年10月31日

さまざまな体験が自分の自信につながる



木々の葉もようやく色づき、一日一日、秋の深まりを感じる頃となりました。朝晩は肌寒さを感じることも多くなり、登校する子どもたちの手がポケットに入っている姿も見られます。



運動場にいたイソヒヨドリ

10月7日（土）の運動会では、保護者の皆様には前日準備から当日の後片付けまでお世話になりありがとうございました。今年度は、ご来賓や地域の皆様、ご家族の皆様と多くの方々にご来校いただき、たくさんのご声援をいただいたことで、子どもたちの意欲が高まり、「練習してきた成果を発揮しよう」「できる自分を見てもらおう」と一所懸命取り組むことができたと感じています。開会式の選手宣誓では、6年生の団長だけでなく、1年生から6年生までの学年代表が自分たちの学年の目標（決意）を発表し、全校が一つになって頑張る気持ちが伝わり、児童会スローガンのとおり「笑顔」の溢れる運動会になりました。

運動会後は、日々の学習の中で、主体的な学びが深まるよう今年度も総合的な学習の時間や生活科の中で、自分たちの住む吉原校区について各学年学びを深めています。地域の方にご協力をいただいて、直接その場所へ行き、本物を見せていただきながらお話をさせていただいたり、地域で一緒に汗を流して活動をしていただいたりと、体験的な学びもさせていただいています。



通学路に咲くコスモス

先日、ある大学の先生の話聞く機会がありました。今回はICTの限界について話をされました。「その物の情報（説明）を手に入れ学ぶことは簡単になった。ただ、その情報は一方的な情報で、その物の質感・触感・重量感・サイズ感・におい等は実物からしか感じ取れない。」と言われたことが印象的でした。学校教育の中では、ICTの活用しやすい環境が整いました。しかし、子どもたちの学習においても、可能な限り本物で学び実物で感じる大切であると再確認させられました。デジタルとアナログのそれぞれの有効性を生かしながら学習を進めていく必要があると感じました。



匂崎から望む建部山

さて、本日は、雨天延期となった校内マラソン大会を行いました。精一杯走っている姿に対し、沿道からたくさんの温かい応援をいただきありがとうございました。

今後もさまざまな体験が、子どもたち一人一人の自信となり、成長できるように指導していきます。保護者の皆様、地域の皆様には引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

校長 青木 信次
教職員 一同

